

安倍総理大臣のキューバ訪問

島田 謙治

2016年9月22～23日、安倍総理大臣はキューバを訪問し、ラウル・カストロ国家評議会議長、フィデル前議長との会談、日系人との懇談等を行った。今次訪問の意義は多岐にわたるが、ここでは次の4点を強調したい。また日程、会談等の詳細は外務省ホームページ http://www.mofa.go.jp/mofaj/la_c/m_ca_c/cu/page3_001817.html を参照されたい。



日・キューバ首脳会談

(写真提供：内閣広報室)

1. 両国の交流史に新たなページを開く訪問

日本とキューバは400年以上に及ぶ交流の歴史を有するが、今回の訪問は、日本の総理大臣として初のキューバ訪問であり、両国交流史に新たなページを開く歴史的意義を持つ。ラウル・カストロ国家評議会議長との首脳会談では、両国外相間の協議等を通じ、幅広い分野でのさらなる関係強化や二国間・国際場裡における協力を加速化し、様々な分野でパートナーシップを強化していくことを確認した。またキューバでは連日、総理のインタビュー記事や記者会見の模様など総

理訪問が大きく報じられ、日本への関心と期待をあらためて高めることとなった。

2. 経済関係の強化

米国とキューバの関係改善を受け、日本の民間企業のキューバへの注目が高まっており、一方キューバ政府は経済社会モデルの現代化と外資導入を推進し、日本からの投資に熱い期待を寄せている。また、キューバには、交通やエネルギー分野をはじめ膨大なインフラ需要が存在する。このような中、今次首脳会談では、キューバの発展に向けて日本の投資が重要な役割を果たすとの見解で一致し、官民インフラ会議の開催、海外投資保険引き受けの一部再開が発表される等、投資を含む経済関係の強化に向け、両国の官民をあげた取り組みが進められることとなった。

3. 経済協力の本格化

キューバは医療、食糧、エネルギー、交通などの分野で多くの開発課題を抱えている。安倍総理は、経済協力を通じてキューバの農業開発及び持続可能な社会・経済開発のさらなる進展に寄与する日本の立場を表明した。

そして、約12.7億円の初の本格的な無償資金協力(医療機材の供与)の書簡署名・交換が行われた。また、経済協力を本格的に推進していくため、国際協力機構(JICA)がキューバに事務所を開設することとした。

4. 非同盟運動諸国の雄として存在感を示し続けるキューバとの関係強化

多くの開発途上国が参加する非同盟運動諸国やG77のリーダー格として存在感を示すキューバとの間で、首脳レベルの信頼関係を構築し、アジア情勢、安保理改革等、国際社会の諸課題についての日本の貢献や立場をカストロ議長に直接伝えることができた。

(本稿の内容は執筆者個人の観点によるものであり、在キューバ日本国大使館を含む外務省の見解を反映または代表するものではない。)

(しまだ けんじ 在キューバ日本国大使館一等書記官)



ホセ・マルティ像献花式典に出席する安倍総理大臣 (写真提供：内閣広報室)